

### 自由論題 G-1「東アジア 1」

<座長> 丸山士行（暨南大学）

- 1) 鈴木透（元国立社会保障・人口問題研究所）「近代移行期東アジアの人口指標」
- 2) 曹成虎（韓国保健社会研究院）・菅桂太（国立社会保障・人口問題研究所）「結婚難の地域差に関する韓日比較分析」
- 3) 可部繁三郎（福井工業大学）「東アジアの少子化と子育て支援策－選択の観点からの考察－」

### 自由論題 G-2「東アジア 2」

<座長> 守泉理恵（国立社会保障・人口問題研究所）

- 1) 松倉力也（日本大学）・謝餘慶（日本大学）「中国における晩婚化と非婚化」
- 2) 梁凌詩ナンシー（日本体育大学）「コロナパンデミック前後における香港の少子化－人口移動と出生性比の変化－」

### 自由論題 F-2「途上国」

<座長> 中澤港（神戸大学）

- 1) 栗田匡相（関西学院大学）・棚橋愛梨咲（関西学院大学）「ネパールの農村における女子学生の幸福度の要因分析－生理の制限に着目して－」
- 2) 松浦広明（松蔭大学）「他の人権の下で存在していた人権を新たに認めるという事：ラテンアメリカ15カ国における憲法上の健康的な環境権の死亡改善効果からのエビデンス」

（岩澤美帆 記）

## 移民・市民権政策の倫理的ジレンマに関する国際ワークショップ

2024年6月17日から21日にかけて、イタリア・フィレンツェの欧州大学院大学（EUI）において、同大学ロベール・シューマン高等研究所の創立30周年記念事業の一環として6つの国際ワークショップが合同で開催された。筆者が参加・報告したワークショップ‘Ethical Dilemmas in Migration and Citizenship Policies’では、移民政策および市民権政策における解決困難な倫理的ジレンマについて学際的な報告が行われた。ワークショップは、「移住と移動」「難民」「市民権」「定住と包摂」「庇護と不平等」の5つのパネルセッションからなり、欧米を中心に政策担当者が直面する数々の難題について活発な議論が交わされた。筆者は、「移住と移動」のセッションにおいて、紛争や自然災害などの困難な状況下において移動を強制することのジレンマについて報告を行った。

本ワークショップは、ジレンマの「解決」を直接的に目指すものではない。むしろその主眼は、問題の根底にある価値観の衝突や実践的な制約を解きほぐすことを通じて、ジレンマをより良く「理解」することにある。主催者から（筆者を含む）報告者に対し「この問題設定は十分にハードなジレンマとはいえない」というコメントが飛び交うワークショップは初めての経験だったが、安易な「解決」に逃げず、透徹した「理解」に重点を置く姿勢から新鮮な気づきを得ることができた。

（宮井健志 記）